



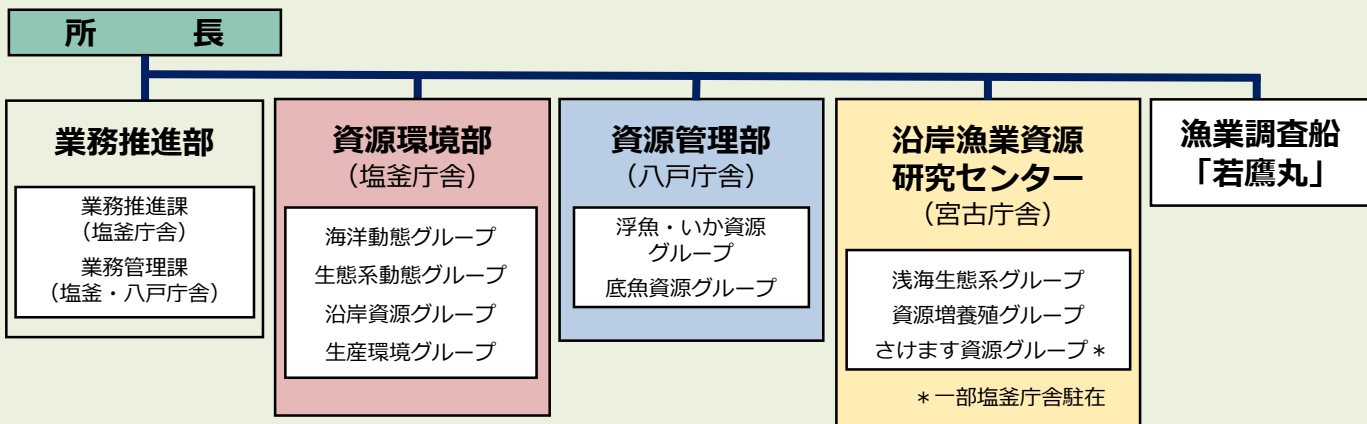
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所

Tohoku National Fisheries Research Institute

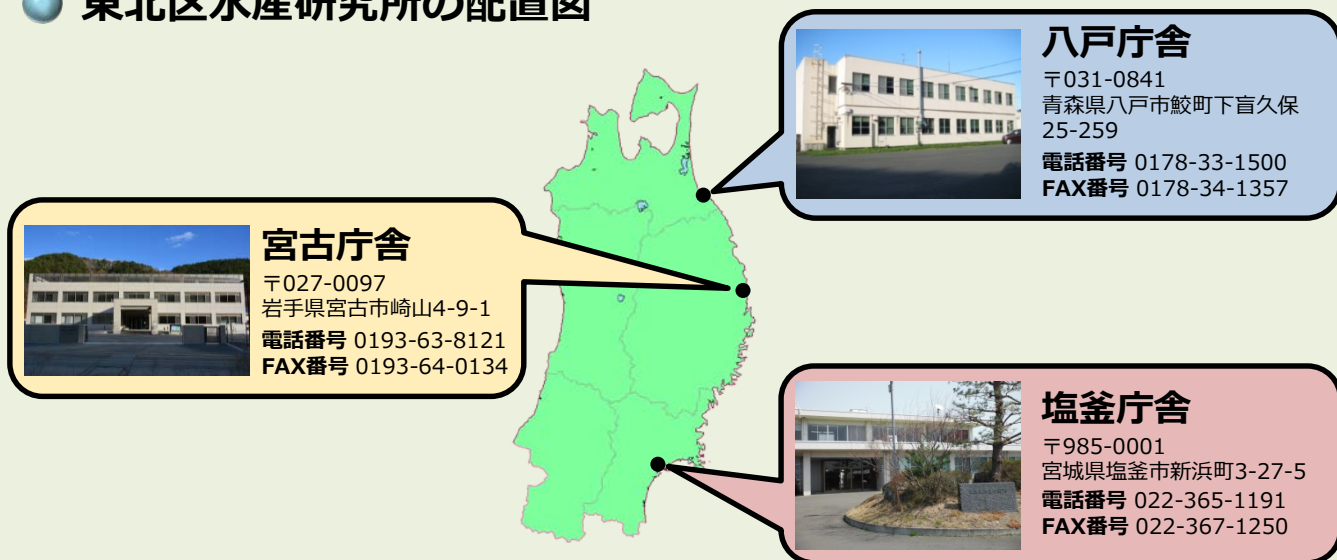
● 東北区水産研究所の役割

東北区水産研究所は、青森県から茨城県までの東北地方太平洋側の海域において水産に関する調査・研究を行っています。この海域の沖合は「混合水域」と呼ばれ、黒潮系の暖水と親潮系の冷水とが複雑に分布する特異な海洋構造をもち、豊かな漁場となっています。私たちは、この「混合水域」の海洋環境の特徴や資源変動のしくみに関する調査・研究を行い、資源管理に関する最新の情報を提供しています。また、三陸から仙台湾にかけての沿岸域は、漁業・養殖業が盛んな海域ですが、震災の影響は未だに強く残っています。沿岸地域の水産業復興に貢献するため、重要水産生物の生態解明、栽培漁業・養殖業の高度化などの課題に取り組んでいます。

● 東北区水産研究所の組織図



● 東北区水産研究所の配置図



● 各部署の紹介

業務推進部

研究開発業務を支援する部門として、業務推進課と業務管理課で構成されています。業務推進課では研究開発の企画・調整、広報活動、ネットワークや図書の管理等を、業務管理課では職員の服務・人事・給与・福利厚生、物品・役務の調達、施設の維持管理等を行っています。

資源環境部



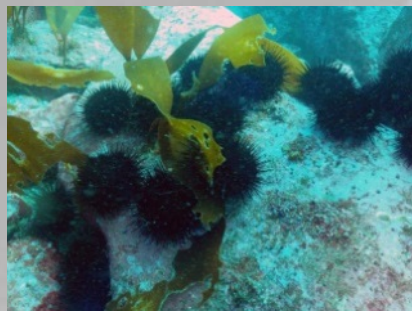
混合水域の高い漁業生産を支える生態系の構造と機能を解析し、海洋環境が漁業資源の変動に及ぼす影響の解明に取り組んでいます。また、地球温暖化の影響評価・予測に利用するために海洋環境モニタリングを実施するとともに、動植物プランクトン標本・データの収集・管理を行っています。さらに、ヒラメ・アワビなどの沿岸漁業資源の変動要因の解明や、養殖生産技術及び漁場管理等に関する研究開発に取り組んでいます。

資源管理部

東北沖合の北太平洋には、サンマ、マサバ、スルメイカなどの浮魚、マダラ、キチジ、ズワイガニなどの底魚等、重要な漁業資源が多く生息しています。これら漁業資源を将来にも持続的に利用できるように、資源生態・資源管理に関する研究を行っています。また、近年、サンマは諸外国による漁獲量が増えています。同様に国際的に重要なアカイカ類も含めて、関係諸国と連携した資源管理を進めるための研究を行っています。



沿岸漁業資源研究センター



震災等による漁場環境の改変に対応し、藻場・干潟等浅海域における漁場生産力の向上を図るため、浅海生態系の回復過程及び漁場保全等に関する研究開発を行っています。また、ヒラメなどの資源の人為的添加による沿岸漁業資源の早期回復のため、効果的な資源増殖等に関する技術開発の推進と、サケのふ化・放流についての技術普及ならびに回帰率向上等に関する研究開発に取り組んでいます。

漁業調査船「若鷹丸」

東北沖合の太平洋海域における漁業資源及び海洋環境に関する調査を実施しています。



(主要目)

全長:57.73m 幅:11.00m 総トン数:692トン

最大速力:13.64ノット

航続距離:約6,000海里(約1万km)

調査設備:表層環境モニタリングシステム

着底トロールシステム

CTD多筒採水システム 他

最大搭載人員:31名 竣工:平成7年3月24日